

第7回あっぷアップ大賞

GM (ゲームマスター) ・ディーラー ・出題：あるでん茶

概要

ブラックジャックとイントロクイズを楽しむ。

ルール

予選～ブラックジャック

- トランプでブラックジャックっぽいことを行う。
 - GMがディーラーとなる。
 - ジョーカーを含まない52枚で行う。
- 3ラウンド行う。賭け金は、1ラウンドから順に10亀戸ドル、12亀戸ドル、14亀戸ドルで固定とする。
 - 「亀戸ドル」は本予選のみで使える仮想上の通貨である（暗号資産ではない）。
- ブラックジャックの基本ルールは、以下の通りである。
 - 各カードには点数が決められている。2～10は数字と同じ、JQKは10、Aは1または11（所持者の都合のいい方を選ぶ）。
 - 持ち札の点数の合計をディーラーと競う（他のプレイヤーは関係ない）。21が最強で、それを超えると負けとなる（バースト）。
 - ただし、最初の2枚で21になった場合をブラックジャックと言い、それ以外の21よりも強い。
 - つまり、強い順に並べると次のようになる。ブラックジャック>ブラックジャック以外の21>20>...>17>16以下>ディーラーのバースト>プレイヤーのバースト。バースト同士の場合はディーラーの勝ちとなるので注意。
- 以下、各ラウンドの流れを述べる。各プレイヤーは賭け金を支払い、各プレイヤーにカードを2枚、表向きにして配る。ディーラーにも2枚配るが、1枚だけ表向きにして、もう1枚を裏向きにする。
- ディーラーの表向きカードがAの場合、ディーラーがブラックジャックであると感じたならばインシュランスを宣言することができる。
 - その場合、賭け金の半分以上をディーラーに支払う。成功（結果的にブラックジャック）であれば、賭け金の1.5倍を受け取る（1ラウンドであれば、インシュランス宣言で5亀戸ドル支払い、成功すれば15亀戸ドルを受け取る）。
 - インシュランスはもともとの勝負とは独立に行われる。
- インシュランスの申し出を締め切ったあと（もしくはディーラーの表向きの札が10以上であれば）、ディーラーは（こっそりと）ブラックジャックであるかどうかを確認する。ブラックジャックであれば、ここでラウンドは終了する。
- それ以外の場合、各プレイヤーには、以下の選択肢が与えられる。
 - ヒット。カードを1枚受け取る。
 - ステイ。これ以上カードを受け取らない意思を宣言する。
 - ダブルダウン。まだヒットしていない状態に限って行うことができる（スプリット後も可能）。カードを1枚だけ受け取り、（バーストしていなければ）ステイする。賭け金を2倍にする。
 - スプリット。最初の2枚が同じ数字（点数ではない）の場合にのみ可能である。カードを2つに分け、それぞれに1枚追加する（2セットの手札がある状況）。賭け金も2回分必要になる。
 - サレンダー。他のアクションをとる前にのみ可能である。賭け金の半分以上を諦めて、降参する。
- 上記の各行動は、毎度全プレイヤーが同時に宣言するものとする。
- プレイヤーの行動が終われば、ディーラーの行動を行う（この時点で裏向きの札をオープンする）。
 - 手札の点数の合計が16以下ならば必ずヒットし、17以上ならば必ずステイする。
- 結果的にディーラーに勝ったプレイヤーは賭け金の2倍を受け取る。ただしブラックジャックで勝った場合は、2.5倍を受け取る。
- バースト、ブラックジャック以外で、合計がディーラーと等しい場合、またはプレイヤー、ディーラーともにブラックジャックだった場合は引き分けとなり、賭け金がそのまま返ってくる。
- 3ラウンド終了後の収支がプラスであるほど上位となる（GMを含んだゼロサムゲームと考える）。
- カードは基本的に再利用しない。ただし残りが2枚になった時点で、前のラウンドまで使ったカードを合わせてシャッフルする。

決勝～桜を聴く会

- 参加者（各プレイヤー+GM）は予選順位の順に（仮想的に）並ぶ。
- 8問限定の早押しイントロクイズ。その楽曲の曲名を答える。
 - 出題するのはすべて**桜を題材にした楽曲**である。
- いわゆるエンドレスチャンスを採用する。
 - 正解が出るまで、何人でも解答できる（もちろん1人1回に限る）。
- 早押し不正解の場合、自分のポジションが1つ下がる。
 - 最下位での誤答は次問から2問の間、ストーン状態となる。
 - ストーン状態となった場合、曲の再生が終了するまで解答権を得ることができない。
 - この「2問」を今大会中に消化できなかった場合は、次回大会（の決勝）に引き継ぐ。
- 早押し正解の場合、自分のポジションが2つ上がる。
 - 最上位で正解すると、自身と2番手の人の間に透明ランナーが出現する。
 - 透明ランナーは、最下位になった時点、あるいは全問題の出題終了後に消滅する。
- 最終的なポジションが高いほど偉い。

年間グランプリ

- 2019年に行われる「あっぷアップ大賞」シリーズの各回の参加者は、その成績によってプレイヤーズポイントを獲得する。その合計が最も多いプレイヤーは、年間あっぷアップ王者として表彰される。
 - 12月29日までは、1度も開催されていない。
- 各回の上位6名は、1位から順に10、7、5、3、2、1のプレイヤーズポイントを獲得する。
- 2019年の集計は、12月30日19時で打ち切る。

補則

- 解答基準は、ゆるトクを採用する。
- 本ルールに定めのない事項については、一般に公正妥当と認められる（イントロ）クイズの慣行に従う。

結果

予選

【ラウンド1】

ディーラーの表出はAで、yomiだけがインシュランスを宣言。

結果、ディーラーはブラックジャックであったのでここで終了。yomiが収支0 (-10-5+15)。他の3プレイヤーは賭け金没収で-10、GMは+30。

【ラウンド2】

ディーラーの表出は10。明風、今更がダブルダウン、yomiは16、Adakは19?でステイを宣言。ダブルダウンの両者が1枚ずつヒットした結果、21と19になる。ディーラーのもう1枚は8で、18でステイとなる。

結果、ダブルダウンで勝った明風と今更が、24のプラス、普通に勝ったAdakが12のプラス、負けたyomiは12のマイナス。GMは48のマイナス。ここまで、明風と今更が+14でトップ、Adakが+2で続き、以下yomiが-12、GMが-18となる。

【ラウンド3】

ディーラーの表出はAで、明風とAdakがインシュランスを宣言。

結果、ディーラーはブラックジャックであったのでここで終了。インシュランスの両名は収支0、他2プレイヤーが-14、GMが+28。

最終結果。+14を保った明風が逃げ切る。GMが28を稼ぎ、通算+10で2位に押し上げる。+2を保ったAdak、0に戻った今更と続き、ラウンド2の負けが響いたyomiが-26と一人負けの形となる。

【所感】

ブラックジャックの基本ルールは知っていたが、今回の実施にあたって調べてみると想定していた以上に奥が深いものであることを知った（スプリット後の再スプリットやダブルダウンが認められるところとそうでないところがある、とか）。それゆえルールの記述にも相当な時間を費やしてしまった。しかしその努力をあざ笑うかのように、3ラウンド中2ラウンドがディーラーのブラックジャックで終わってしまうという淡白な展開になったのが惜まれる。

決勝

(初期並び順：明あ yA 今)

1. 津軽さくら物語／川中美幸／F7／

「美幸のうたの旅人」シリーズの記念すべき第1作なのだが、シリーズの他の作品を知らなかった。青森県弘前市で開催される弘前さくらまつりをイメージした楽曲で、同市の観光コンベンション協会による推薦曲という扱いになった。作詞はこども園の園長、作曲は青森県内ローカルの(盲目の)シンガーソングライターによるものである。そういう曲を川中美幸が歌うことになった経緯が、陸奥新報(青森県内のローカル新聞)の記事にあってWebサイトでも読めるようになっているので、これからちゃんと読んでみる(←読んでから書けよ)。

2. 桜坂／福山雅治／S7／明風○→明□あ A 今 y

2000年のスーパー大ヒット曲。当時は「未来日記」がパワーワードであったということ、若い読者のために記しておく。

3. 花は桜君は美し／いきものがかり／C7／yomi ○→明□あ yA 今

「sakura」じゃない方の桜ソング。気が付けば「集牧」していた。「放牧」の対義語を「帰厩」と認識しているのは私だけではないと信じている。そもそも活動休止を「放牧」と称したのはいかになものなのだろうか。「いきものがかり」は放牧する側なのかされる側なのか...などと考えていると頭がこんがらがってしまった。

4. 桜並木道／Whiteberry／D8／Adak ○→明□A あ y 今

三ツ矢サイダーのCMソングとして使われた、シャカリキカリキな曲。WhiteberryのVo.だった前田有紀は、今は前田有嬉としてソロで音楽活動しているらしい。世間的には白ベリ=「夏祭り」なのかもしれないが、私の中では「夏祭り」=Jitterin'Jinnであり、メンバーによる作詞曲であるこの曲こそが白ベリの象徴となっている。

5. 桜会／ゆず／D6／

「さくらえ」。「さくらかい」と読むと別の概念になってしまう。2010年の曲でスルーを予想していたが、聞き覚えがあるという人は意外と多かった。

6. SAKURA ドロップス／宇多田ヒカル／C6／Adak ○→A 明□あ y 今

同じ時期に後藤真希が(この曲同様に)ドラムロールで始まるイントロの曲を出していて識別に苦しんだが、このテーマであれば躊躇なく押せる。この人の桜ソングでは、「桜流し」というのも有名であるらしい。

7. ひらり／大原櫻子／D7／

今回の出題では唯一タイトルに桜を含んでいないのだが、歌手名に含んでいて帳尻が合う。もちろん内容も桜の花が「ひらり」と揺れる様子を描写している桜ソングである。

8. 101 回目の桜／りんご娘／F?8／

気が付けば(名前は)全国区になっていたりんご娘(RINGOMUSUME)の、2018年の曲。2018年に弘前さくらまつりが100周年を迎えるのをきっかけに、「101回目も大切な人と日本の桜を観に来てほしい」というメッセージを込めた楽曲だったが、来年(2020年)のさくらまつりが100回記念と銘打たれていてアラ不思議。実は、1944年~1946年は開催が中止されていたのである(理由は伏せる...までもないか)。それと、2011年にも中止が検討されたが、結果的に開催されたことは本当によかったと感じている。

結果と所感

最多となる2問の正解を出したAdakが1位となった。続いて予選のリードを保った明風とGMが続き、正解を出したyomiが4位、無正解の今更が5位となった。(趣味出題が25%を占めたこともあって、)正解が4問しか出ない展開となったため、予選のウェイトが相対的に大きくなったと言える。

「桜を見る会」が裏向きの流行語となったのにちなんで、この年末に桜ソングを出題してみた。しかし他にも出題したい桜ソングが多くあるので、来年も「桜を見る会」の真実が暴かれることによって話題となり続けることを願う。

(レポート公開：2019/12/31 version 1.0)